異世界へ行けるようになりました。(仮)

大月凛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
異世界へ行けるようになりました。（仮）

【Ｎコード】
Ｎ７００１Ｚ

【作者名】
大月凛

【あらすじ】
《異世界へ行けるチャンスをやる。行くか行かないかは自由だ。》
突然神が俺の前に現れた。
その日から俺の人生が変わっていく。
主人公である生田亮（いくたりょう）は夢もやりたいこともなく惰性で大学生活を送っていた。

これは主人公が異世界で活躍するかもしれない？お話です。

初めてで矛盾や間違いが多々あると思いますが、気にしないで下さい。作文は苦手です。

それでは期待せずに、軽い気持ちでお読み下さい。

始まりの章

目の前に白髪、白髭の男が光を伴っていきなり現れた。

『儂は神じゃ』

その男は宙に浮き、後光すらさしていた。

顔つきは優しいおじいちゃんといったところか。服装は白いローブであり、杖を持っている。

「それで？神様が俺になんの用だ？」

亮は神を見てもほんの一瞬驚いただけだった。

見えないものは信じないが、見えているものは現実として信じるといった少し変わった性格なのだ。

人は見えないものが見えたとしてもそれを受け止めることはなかなかできない。

神は見えないからこそ神なのだ。

『もう少し驚いてもいいんじゃないか？普通は信じなかったり、畏敬の眼差しをするもんだぞ』

「何もないところから出てきたんだ、信じるほかない。それに、様をつけて敬ってるだろ？だから早く用件を言ってくれ」

『まぁ、いいだろう。《異世界へるチャンスをやる。行くか行かないかは自由だ。》』

「いくつか聞きたいことがあるんだが？」

『なんじゃ？言ってみろ』

「一つ目は異世界に行って俺にメリットはあるのか？」

『異世界には魔法もあれば、魔物もいる。興味があるだろ？それに、色々な能力を付与する』

以前から考えていたことがあった。この世界において大多数の一人だったのが気に入らなかった。誰かの下につくのが気に入らなかった。大きなことをしたいと考えてた。しかし無能ではなくても突出している部分など皆無である亮には不可能だった。

しかし異世界においてはどうだろうか？この世界の知識で何かできるかもしれない。しかも何かしらの能力まで貰える。それは非常に魅力的な提案だった。

「なるほど、確かにそれは興味深い。ファンタジーの世界というわけか。そこで俺は勇者として魔王討伐するのか？」

『やりたいならやったらいい。何をするのかは自由じゃ。』

「自由か…。ならあんたは何が目的で俺を異世界に行かせたいんだ」

『単なる暇つぶしじゃよ。儂クラスの神になると案外暇でな』

神は目を細め、微笑していた。

「なるほど。なにか裏がありそうだが納得しておくことに

するよ。それと1番重要なことだが異世界に行ったら、もう戻ってはこれないのか？」

『結論からいうと戻れる。しかし、行くのは簡単だが戻ってくるには白霊石が必要じゃ。白霊石を入手するにしても高価であったり、採掘でも出にくかったりで簡単には手に入らない』

「戻れることがわかれば十分さ。いいよ。どうせ俺も暇だし、ファンタジーにも興味がある。異世界に行くことにするよ」

『さすが儂が見込んだ男じゃ。ちなみに異世界に行っているあいだこっちの時間は止まっておる。安心するんじゃ。それでは能力付与の話しをするか…』

能力pt

『能力は１００ｐｔの中から選ぶのじゃ』
「それは省略しすぎだろ」
『すまん、すまん。例えばだな体術基礎１０ｐｔ、剣術基礎１０ｐｔ、魔術基礎２０ｐｔ、女運６０ｐｔ合計１００ｐｔなのじゃ』

（お、女運？）

「…エロじじいかお前は」
『…さて、理解したようじゃし選んでみろ』
「さて、どれにするかな。…ん？エロじじい、この魔術上級が１５０ｐｔなのはどういうことだ？」

『それは追加ｐｔじゃ。異世界で色々なことで貢献することによって追加でｐｔを得るこたができる。ｐｔはこちらの世界でしか使えないがの。ところでエロじじいはやめてくれんか』

「なるほど。種類が多すぎで悩む」
『…スルーするのはやめてくれんか』

そこには様々な能力があった。
体術・剣術・魔術・馬術など数えきれない能力があった。
そしてある能力に目が止まった。

「ん？…言語、読み書きが８０ｐｔだって？」

俺は困惑した声をあげた。
確かに異世界で言葉が通じない、読み書きができないのは致命傷だ

ろう。しかし８０ｐｔという数字はあまりに高かった。

「エロじじい、このふざけたポイント数はなんだ？」

『ん？わかっておるじゃろ。言葉がつうじないことの意味。意志疎通がてきない意味が。ただ言葉がつうじないで外国に行くなんてもんじゃない。文化や考え方が違う。宗教や制度が違うんじゃ。それになにかと便利じゃぞ』

神、もといエロじじいは何かを含んだ怪しい笑みをしていた。

「ちっ、しょうがない。体術基礎１０ｐｔと剣術基礎１０ｐｔそして言語、読み書き８０ｐｔで１００ｐｔだ」

『それでは早速行くか？』

「待て！まだ準備は終わっていない」

『儂も忙しいからあと１５分しか待たんぞ』

急いでタンスから大きなスポーツバックを取りだした。

「持っていくのは……薬、服、あと靴もいるじゃないか！他には……」

俺はバックに考えられるだけ必要なものは詰め込んだ。

「よし！いいぞ、エロじじい」

『１０分で終らせるとは手早やかったな。ほれっ、これは餞別じゃ。使い方は後で分かる』

エロじじいは剣と携帯電話を渡してきた。

「なんで携帯電話なんだ？まぁ分かるんならいいとして。剣があるんだったら包丁はいらないか？」

俺は台所に包丁を置きにいった。

そこで気づいたんだ。調味料の存在に。

「まさか胡椒が価値が金と同じなんてことないよな？あと塩も……」

まさかと思いつつ胡椒と塩をあるだけバックに入れていた。

「準備できたぞ」

『それでは送るぞ。希望にあふれた若者に幸多からんことを』

俺の身体が光に包まれ、まるでエレベーターに似た奇妙な浮遊感とともに意識が無くなった。

始まりの街アルマリー

「……っう」

目が覚めると俺は倒れていた。
本当に異世界へやってきたかわからないままずは体の状態を確認する。そして体に異常がないことを確認すると自分の周囲を見渡した。

「ここはどこだ？」

見慣れぬ草原がそこにあった。
そして見慣れた太陽がそこにあった。

「本当に異世界へやってきたのか？ただ場所が違うだけなんじゃないか？まぁそうだったとしてもスゴいな。とりあえずどこに行ったらいいんだ？」

俺の考えは疑問符だらけだった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7001z/

異世界へ行けるようになりました。(仮)

2011年12月30日23時47分発行